

「ありがとう」と「当たり前」

校長 米村 圭史

先月のある午後、鹿児島市で車の運転をしていたところ、少し先の交差点で1人の高齢の男性が倒れていました。びっくりして車を離れて近づいてみると、その男性は意識を失い、倒れて動けなくなっていました。人通りの少なかった場所だったのですが、自分も含め、すぐに何人かの方々が駆け寄り、何が起きたのか確認しました。「まずいぞ!」と誰かの声がしました。まさに緊急事態でした。

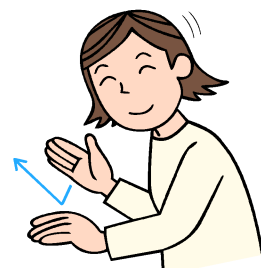
その中で、真っ先に駆け寄ったのは、近くのコンビニで働いていた「まいこさん」という若い女性でした。まいこさんは、ただちに携帯電話で救急車を呼び、冷静に周りの人々に指示を出しながら、倒れた男性に話しかけ続けました。「大丈夫ですか? すぐに助けが来ますからね。」と声をかけ、手を握ってあげました。そして、まいこさんの呼びかけで、すぐに近所の方々も助けに駆けつけました。近所の家の方は冷たいお水を用意して持ってきてくれました。近所のおじいさんは、倒れた男性の周りを囲み、車の通りを止めるために道路を整理していました。みんなで協力して、救急車が到着するまでの時間を必死に過ごしました。救急車が到着し、男性は無事に病院に運ばれました。まいこさんは病院へ足を運び、男性の無事を確認しました。幸いにも、その男性は大事には至らず、すぐに回復することができたそうです。

その場に駆けつけた倒れていた男性の家族の方々は「本当にありがとうございました。」と涙を流しながら言っていました。その時、まいこさんは「私は何も特別なことをしたわけではありません。ただ、目の前で困っている人がいたら、助けるのが当たり前と思って行動しただけです。」と答えました。隣にいた私はその言葉を聞いたとき、胸が熱くなるのを感じました。どんな小さな行動でも、それが誰かにとっては大きな助けになるのです。「当たり前」の優しさが、地域を強く、温かく、支え合う力となっていくことを実感しました。救急車を呼び、周囲を落ち着かせ、できる限りのことをしたその姿勢が、多くの地域の人々に感動を与えたのです。「当たり前に助け合うことが、こんなにも大きな力になるんだ」と感じた方も多かったと思います。

後で調べてみると、「ありがとう」の語源は仏教の「有り難し」から来ており、「有る(ある)こと」が「難い(かたい)」という意味で、本来は「滅多にない」や「珍しくて貴重だ」という意味を表したそうです。すなわち、「当たり前ではないということに感謝する」ということで、そう捉えると、その対義語は「当たり前(ありきたり)なこと」となります。

私達は、人からとても親切にされたときや物などをいただいたとき、とてもうれしく思い感謝します。しかし、日常生活の中で特別に何かをされたり、もらったりしなくても感謝することはたくさんあります。普段何気なく生活している中にたくさんの感謝すべきことがあります。要するに私達はあることが当たり前になり、その当たり前のことを一番感謝すべきありがたいことだと「気付く」ことが大切なのかもしれません。「当たり前」の優しさが、支え合う力となっていくことを実感しました。

本年度も12月2日から、「人権週間」の取組が行われました。子供たちは、人権集会などを通して、互いのよさを認め合い、ともに高め合えることが大切だと学びました。自分と違った考え方や感じ方を知ることで、新たなものの見方や考え方が培われます。人の優しさは「当たり前」のことではなく、「有り難い」ことと捉え、相手に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることで、互いに温かさが生まれます。人権週間の取組をきっかけにして、あたたかさでいっぱいの星原小学校になっていくと良いなと思っています。



人権週間の取り組み

12月2日から9日までは校内人権週間でした。この期間中に人権教室と人権集会を行いました。人権教室では人権擁護委員の方に来ていただき、子供たちにとっての「人権」について資料を使いながら詳しくお話をしてくださいました。また、人権集会では子供たちが中心となって会を進めました。進行の4人が人権について深く考えるような本を選び、読み聞かせとして発表してくれました。この人権週間の取組をとおして、身の回りの差別や偏見について考えたり、人権に関する取組みを全校でしたりすることにより、相手を大切にし、差別をなくそうとする気持ちをの大切さについて考えることができました。



増田宇宙通信所50周年記念式典 宇宙飛行士講演会

12月14日、JAXAの増田宇宙通信所の50周年を記念して種子島こりーなで式典が行われました。増田宇宙通信所が今年5月で50周年を迎えたことを記念して町内の全小学生たちが参加しました。

式典ではJAXAの宇宙飛行士古川 聡さんによる講演も行われ、子供たちは真剣なまなざしで宇宙の話に耳を傾けていました。

Q 地球に帰ってきたときはどんな感覚ですか？



(ニュースより画像挿入)

「体が無重力になれているので色々とびっくりすることがある。帰ってきたときにお辞儀をしたら気持ち悪くなっちゃう」

子供たちにとって、宇宙飛行士の方の話を聞くというめったにない機会に恵まれて、大変勉強になる式典となりました。

お仕事の話をしていただきました。



保護者の中山さんに、ご自分のお仕事について、子供たちにお話していただきました。空港での仕事について、詳しく教えていただきました。仕事についての詳しい内容だけでなく、中山さんが仕事に対して持っている責任感なども分かり、子供たちは「職業」ということに対して考えるきっかけになりました。中山さん、ありがとうございました。



老人クラブの方々に雑巾を頂きました。

先日、中種子町の老人クラブ連合会の方々に雑巾を寄贈していただきました。新しいタオルを使った手縫いの雑巾です。年末の大掃除などに活用させていただこうと考えています。本当にありがとうございました。



1月の行事

8日(水) 始業式
15日(水) CRT学力検査

22日(水) 研究授業のため校時変更
23日(木) 授業参観、学校保健委員会
給食試食会、家庭教育学級